

第2回「住民による まち・むら活力確保支援セミナー」

地域運営組織の形成と その課題等について

2017.3.15
長野県総合教育センター

信州大学 地域総合戦略推進本部
新 雄太

TOPICS | 産学官民連携の4事業

1. 長野市耕作放棄地等における 「ソルガム」活用調査共同研究事業

平成25年度～現在 長野市×信州大学
平成26年度～現在 一般社団法人 北陸地域づくり協会

2. 文部科学省 地（知）の拠点整備事業 課題解決型パイオニア人材育成講座 「地域戦略プロフェッショナル・ゼミ」

平成26年度～現在
長野県・長野市・松本市・上田市・伊那市・南箕輪村
×信州大学

3. 大町市定住促進共同研究 大町市街地における「空き不動産」活用調査

平成27年度～現在 大町市×信州大学

4. 上田市真田まちづくり準備会

平成28年度～現在 上田市×信州大学



1.長野市耕作放棄地等における「ソルガム」活用調査共同研究事業

平成25年度～現在 長野市×信州大学
平成26年度～現在 一般社団法人 北陸地域づくり協会

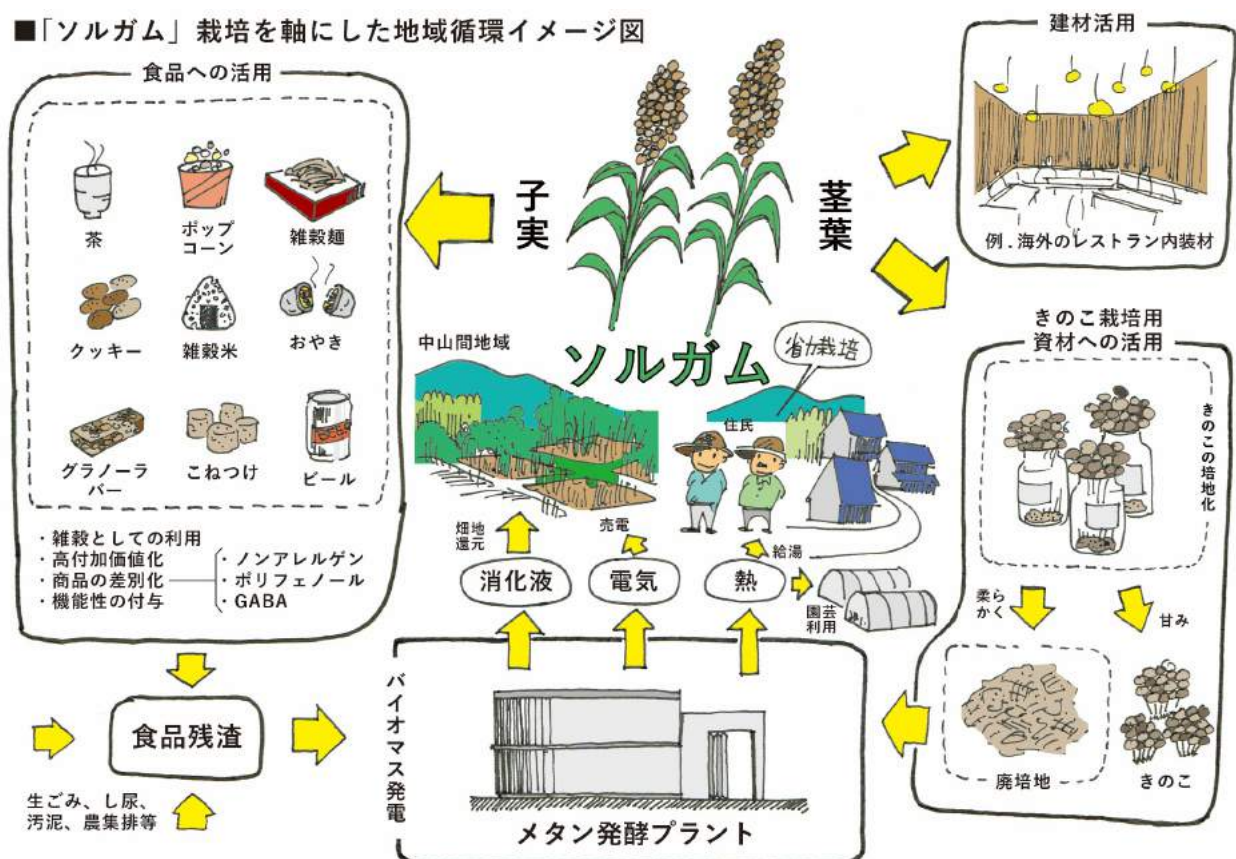


左から涼風・華青葉・三尺ソルゴー・ミニソルゴー

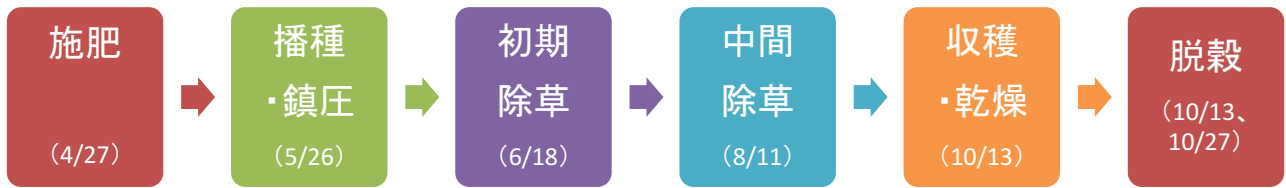
ソルガムきびが拓く地域自立型循環モデルの開発



■「ソルガム」栽培を軸にした地域循環イメージ図



● 工程



● 作業状況



施肥



播種・鎮圧



除草



刈取り



脱穀



乾燥

平成28年度 ソルガムきび健康食品コンペティション

料理部門

<p>最優秀賞</p>  <p>信州ジビエとソルガムのボルベッティーネ 農園カフェラビット</p>	<p>努力賞</p>  <p>ソルガムちまき いな食育研究会</p>	<p>努力賞</p>  <p>ソルガムと大豆のキーマカレー 林真理</p>	 <p>ソルガム餃子 株式会社信栄食品</p>	 <p>ゴールデンフリーソルガムのガレット〜アマミューズとして〜 アントワヌティエリ</p>	
 <p>ソルガムときのこのすいとん イグレック</p>	<p>料理部門賞</p>  <p>健康ソルガムきびのふりかけ「健康ソルふり」 中島 敬治</p>	 <p>オール缶詰でノンアレルギーソルガム入りチキンローフ(レモンソースがけ) 鈴木 章子</p>	 <p>ソルガムポタージュ 宮尾 召子</p>	<p>努力賞</p>  <p>ソルガムきび不老長寿豆腐 日本料理 悠善 中島 瑞生</p>	

スイーツ部門

 <p>白馬のシフォンケーキ 白馬スポーツ・自然振興協会</p>	<p>スイーツ部門賞</p>  <p>信州ソルガムのしっとりシフォンケーキ おやつ工房 ままおーぶん</p>
 <p>アトピっ子の元気がなっぺ 田中 佳子</p>	<p>努力賞</p>  <p>きびショコラ 松田 美和子</p>

チャレンジ部門

<p>審査員特別賞</p>  <p>つぶつぶ発酵ソルガム 濱浦 亮子</p>	 <p>ソルガムドリンク 鎌倉 彬</p>	<p>アレルギーフリー賞</p>  <p>ソルガムこんにゃく 有限会社 寺田屋</p>
 <p>ソルガムごパン 河可 奈央</p>	<p>チャレンジ部門賞</p>  <p>高野豆腐入りソルガムきびパン 郡司 麻美</p>	



2.文部科学省 地（知）の拠点整備事業 課題解決型パイオニア人材育成講座 「地域戦略プロフェッショナル・ゼミ」

平成26年度～現在 長野県・長野市・松本市・上田市・伊那市・南箕輪村×信州大学



知の循環と集積 事業モデル SHINSHU UNIVERSITY

1.課題解決知の形成

- 地域の知と大学の知を融合させて信州の未来を考える解決知を創造
- 中山間地域の未来学
 - 芸術文化の未来学
 - 環境共生の未来学
 - 防災減災の未来学
 - 多文化共生の未来学
 - 健康長寿の未来学

研究開発

実践者の知

課題解決知

研究者の知

自治体職員等の地域講師を活用した授業や地域課題を実践的に学ぶ授業の導入



自治体職員による講義

2.人材育成フェーズ

地域貢献（地域人材育成）

地域戦略プロフェッショナル・ゼミ

社会人の学び直し・経験知の体系化と行動力アップ

- ・地域課題解決のパイオニア育成
- ・高度専門職人材の育成（大学院進学）
- ・地域コーディネーターの育成

地域連繋による循環型学習環境構築

プロゼミで育成した地域人材を大学教育に活用。自身の学びに加え、教えることで学修を達成する。また、地域からの踏み込んだ大学参加により地域と教員・学生の連繋が深まり、地域志向教育・研究の実践力を促進

キャリア意識醸成

- ・実践学習の場提供
- ・地域活用学習

地域（自治体・市民）との「対話」から抽出した課題	人文教育学部	経済学部	工学部	農学部	看護学部	環境学部	国際学部
地域を題材に信州、日本、世界の未来を学際的に考えるテーマ設定	中山間地域の存続と継承	歴史文化芸術の継承と発展	持続可能な環境共生社会構築	健康長寿と社会の構築	グローバル・多様性社会の構築	地域協働による防災減災	地域経営
分野融合				一貫教育			
文化芸術				環境共生			
健康長寿				多文化共生			
防災減災				防災減災			

信州の地域課題を通じて学問と社会のつながりを高める

大学教育改革

3.地域協創の実践

課題解決人材の増加
活動支援者の増加

行政・企業など他の活動の参加・連携促進

地域活性化の基盤
信州 知の森 プラットフォーム
(地(知)の拠点)

課題解決活動

地域志向の教員や学生と協力して、継続的に支援

地域志向教員の増加
地域志向学生の増加

キャリア形成

信州大学

北信地域

中山間地域の未来学Ⅲ

「本当に集落は限界なのだろうか」



中山間地域の未来学Ⅲ修了生
りんご農家見習い/長野市
古川 雄太

- テーマ:**「本当に、集落は限界なのだろうか ー 尊び敬う やまざとの現在ー」
実施期間:2016年10月22日(土)～2017年2月18日(土)(全15回+α)
修了生:16名(飯山市、長野市、千曲市、大町市、小諸市、佐久市、松本市)
講座会場:長野市小田切地区(10集落含む)、信州大学工学部キャンパス、ほか
協力:長野市小田切地区住民自治協議会、長野市小田切支所、
 長野市地域活動支援課、長野県地域振興課、第1期・第2期修了生、ほか
運営:新 雄太(カリキュラム・コーディネーター)、天野 良彦(カリキュラム・アドバイザー)、
 風間 砂弓(カリキュラム・アシスタント)

「中山間地域の未来学Ⅲ」カリキュラム概要

「グループテーマ」ケーススタディ…長野市小田切地区

ワールド実学フェーズ

企画・協働フェーズ

10/22(土) 第1回 行政の地域戦略「数字で知る信州の集落運営」青少年錬成セ
【裏ゼミ】朝まで討論会!「本当に、集落は限界なのだろうか」

10/22(土)-23(土) 合宿! **視・触**
 第2-3-4回 **聴**
 「集落の解剖地図」
 国見集落 + 青少年錬成セ

11/5(土) **視・触**
 第5-6回 **聴**
 「民話リノベーション」
 小野平・日方・麻庭・吉窪 + 農村環境改善セ

11/19(土) **臭**
 第7-8回 **視・触**
 「模刻民家」
 久保集落 + 下宮野尾公民館

12/3(土) **味**
 第9-10回 **視・触**
 「神様と米づくり」
 上深沢・平深沢・下深沢・平林 + 深沢区公会堂

【冬休みの課題】ビジョニングワーク「未来新聞」

1/14(土) 第11-12回 住民対話「集落と家族と百の生業」小田切ふれあい交流広場

1/21(土) 第13回 企画立案「アイデアの芽を紡ぐ」工学部キャンパス
【プロジェクト相談会】

2/4(土) 第14回 中間発表「新しい時代の地域のあり方」工学部キャンパス
【プロジェクト相談会】

2/18(土) 第15回前半 グループ発表(最終公開プレゼンテーション)
 小田切地区への事業提案「地域の未来へいまできること①」

2/18(土) 第15回後半 個人発表「地域の未来へいまできること②」








3. 大町市定住促進共同研究 大町市街地における「空き不動産」活用調査

平成27年度～現在 大町市×信州大学



信濃大町駅からのびる駅前商店街

H28「住民まちづくり学校」の開講



空き不動産（空き家・空き店舗・空き土地等）を「地域の資源」と捉え、〈民官学〉がともに地域の空き家不動産をテーマに段階的に**学び、考え、わが「まち（地域）」を見つめなおし、うごかす、ための学校。**対象モデル地区：仁科町・五日町・八日町を舞台に全6回の講座をシリーズ開講。住民の延べ参加者数：**115名** ※各回参加1名を1回としてカウント（行政・大学関係者を除く）

第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回
5月29日(日)	6月26日(日)	8月21日(日)	9月18日(日)	10月2日(日)	10月30日(日)
座学(3時間)	善光寺視察(5時間)	まち歩き(4時間)	企画構想(2.5時間)	中間発表(3.5時間)	最終発表会(3時間)
大町リノプロ	善光寺門前界隈	仁科町・五日町・八日町	大町リノプロ	大町リノプロ	【公開】大町リノプロ
13:00 開場 13:30- 済 1. H27 研究報告 - 不動産所有者 アンケート調査 2. H28 研究計画 - 住民まちづくり学校 - アンケート調査 14:30- 3. レクチャー 全国の空き家・空き店舗活用の先進事例 15:30- 4. グループワーク - 提案発表要項 16:30-	9:00 信濃大町駅前出発 バス移動(長野へ) 10:30- 東町ベース 1. まち歩き! 善光寺門前のまちを支えてきた旦那衆と次世代の芽を巡る! - 西まわりコース - 東まわりコース 13:30- Shinkoji Hall 2. 対話する! ショートレクチャー意見交換会 15:30 長野発 17:00 頃 信濃大町到着	12:30- 大町リノプロ拠点 13:00- 【第一部】 1. 大町わがまち再発見! 4コースのまち歩き - 食コース - 歴コース - 水コース - 謎コース 15:30- 【第二部】 2. 対話する! - コースの振り返り - 知ってるようで知らないまちの魅力・資源を共有 17:00 終了	14:30 開場 15:00- 済 1. 前半講座振り返り 2. レクチャー 企画提案テーマ 企画の練り方書き方 3. グループワーク 企画の芽をつむぐ 企画書の作成 4. 発表 提案対象エリアの決定 17:30 終了	13:00 開場 13:30- 済 1. 発表準備 - グループ作業時間 15:30- 2. 中間発表会 - 発表+質疑応答 3. 提案要項確認 「明日の大町をつくる3つの提案」に 17:00 終了	13:00 開場 13:30- 済 1. 住民まちづくり学校振り返り 14:00- 2. 提案発表会 - 発表+質疑応答 大町市長 + 増澤珠美氏 15:00- 3. トーク・セッション 「空き家を活かすまちづくり」 16:30 終了予定



◎大町の明日をつくる3つの提案

住民まちづくり学校の最終回にて住民による3チームより提案発表

- ・A班「通りの名付け親構想～石畳を軸とした通りに名前を付ける～」
- ・B班「大町の誇りを魅せる～舞台庫を観光資源に～」
- ・C班「大町に回遊ルートを」

◎一軒の空き家の課題解決ではなく、**まち（地域）全体をリノベーション。**

空き家にしないためのまちづくりを空き家を活用して行うこと。

まちの「**歴史文化**」や「**誇り**」とともに次代へまちの空間資源を繋げる。



(1) 空きスペースでの大町の春夏秋冬ポスターの掲示

長野市門前の先進地視察後に、
小さなことでもまず
自分たちでできることから開始。
住民自ら**店舗シャッターや壁などの所有者に交渉**し、少しでも賑やかになるように大町の春夏秋冬の4枚1セットのポスターを掲示。



(2) 地区横断的な事業ゆえ、住民同士の意思疎通が透明に

① 空き家と移住希望者のマッチングへ

自治会内外で空き家に関する**情報交換が促進**されたため
マッチングが成立。ちょっとした相談ごとのできる関係。

② 旅館⇒シェア&コミュニティハウスのプロジェクト始動

現在、若手の地元企業が中心となり改修中。

4.上田市真田まちづくり準備会 「地域運営組織の形成とその課題等について」

平成28年度～現在 上田市×信州大学



◎地域運営組織とは？

真田まちづくり準備会

「地域運営組織」の定義

II

「地域の生活や暮らしを守るため、地域で暮らす人々が中心となって形成され、地域課題の解決に向けた取組を持続的に実践する組織。具体的には、従来の自治・相互扶助活動から一步踏み出した活動を行っている組織」

- 494 市町村において 1680 団体（任意団体が8割）。
- 活動範囲は主に「小学校区（旧小学校区）」。
- 活動内容としては、高齢者交流サービス、声かけ・見守りサービス等の高齢者の暮らしを支える活動が多く、その他に体験交流事業、公的施設の維持管理、特産品の加工・販売等幅広い活動が行われている。
- 主な収入源としては、市町村からの補助金等が最も多く、次いで、構成員からの会費、利用者からの利用料となっているが、活動資金の不足が継続的に活動していく上での主要な課題に挙げられており、財政基盤は脆弱である。

総務省「地域の課題解決を目指す地域運営組織(中間とりまとめ)」, 2016.8

- ①「協議機能」
地域の将来ビジョンや課題の解決方法を検討
- ②「実行機能」
地域課題解決に向けた取組を実践

	一体型 (①+②)	分離型 (① ②)
長所	地域住民の意思を事業に反映しやすい	事業に適した組織形態をとりうる
短所	事業のリスクを地域全体に及ぼすおそれがある	地域全体の最適性より事業を優先させるおそれがある

総務省「地域の課題解決を目指す地域運営組織(中間とりまとめ)」, 2016.8

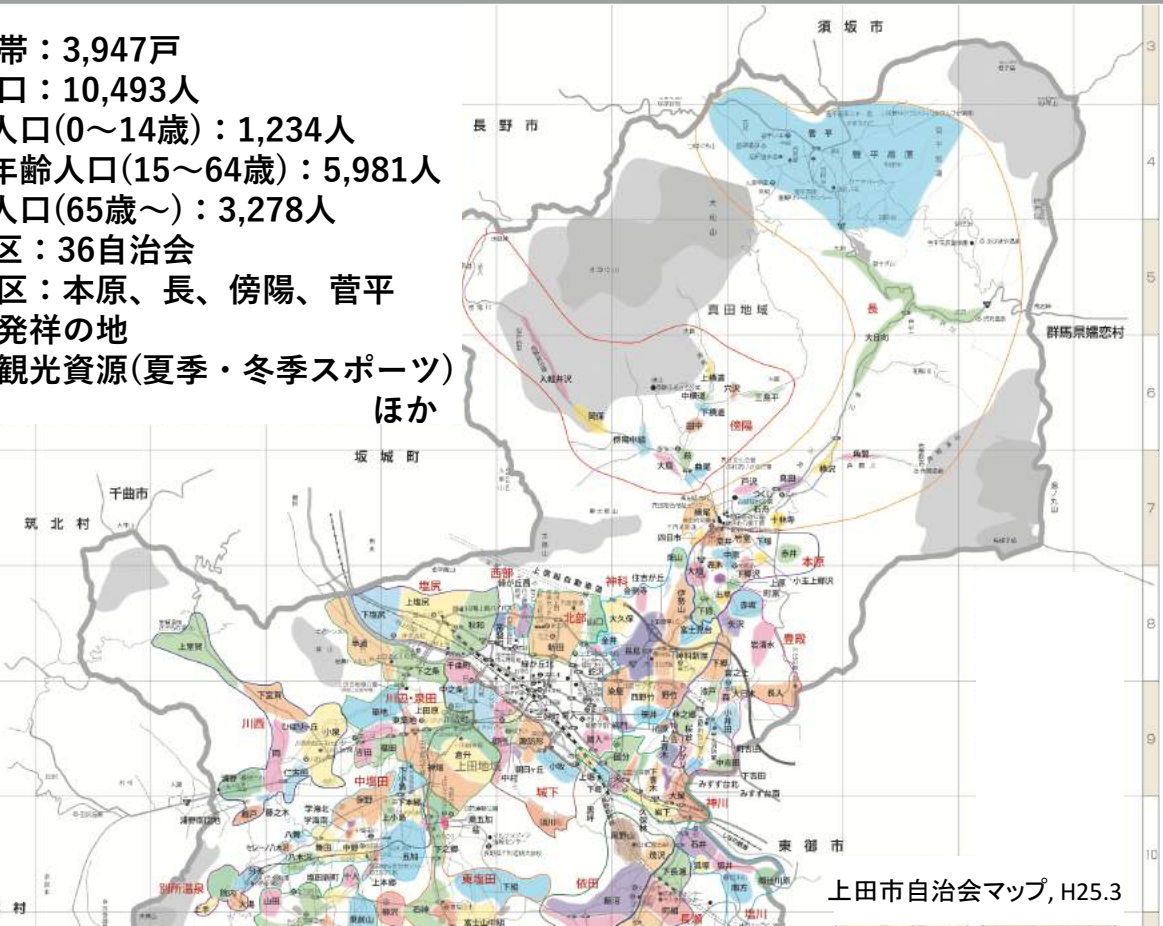
中山間地域をはじめとした人口減少や高齢化が進行する地域においてこれからも暮らしを維持していくためには、民間事業者が提供する市場サービスの減少、市町村等による行政サービスや地域コミュニティによる共助機能の低下等によって生じた生活サービスの隙間を埋めるとともに、その地域において生活できるための収入・仕事を得ることが不可欠である。

そのためには、地域住民自らが生活サービスの提供やコミュニティビジネスの事業主体となりうる地域住民主体の組織（地域運営組織）を形成することが必要となっている。

総務省「地域の課題解決を目指す地域運営組織(中間とりまとめ)」, 2016.8

住 民	行 政
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の将来が漠然と不安（しかし、現在の暮らしには割と満足している）。 ・税金の対価（見返り）がほしい。 ・行政業務の縮小？押しつけ感。 ・ただでさえ地域の役が多い。 ・自分では何ができるかわからない。 ・昔の活気ある地域を取り戻したい。 ・かつての日本人は、自ら「隣組」や「マキ」「ええっこ」などの相互扶助コミュニティの組織で支えあってきた。 ・地域のことを熟知している人がいる。 ・世代横断的、地区横断的な繋がりはすでに小学校や公民館等を拠点にある。 ・すでに様々な地域活動をボランティア等で実践している人（団体）がいる。 ・地域を経営し、新たな産業創出も。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少⇒税収減 ⇒行政サービスの質・量の低下 & 社会保障等のニーズ増 ⇒需要と供給のミスマッチ ・組織設立が目的化してしまうことも。 ・行政業務の縮小ではなく、 地域の一人一人がより活躍できる場（一人当たりの公共領域）の拡大へ。 ・同じ地域にいる一員として支援。 ・既存の自治会、自治連、各種団体等との連携可能性を模索したい。 ・「守る自治会」機能と「攻める地域運営組織」の併存の強み。 ・地域活動のさらなるバックアップ体制を強化（担当部局の明確化・現場主義型の人材配置）へ。

- ・世帯：3,947戸
- ・人口：10,493人
 - 年少人口(0～14歳)：1,234人
 - 生産年齢人口(15～64歳)：5,981人
 - 高齢人口(65歳～)：3,278人
- ・自治区：36自治会
- ・小学校区：本原、長、傍陽、菅平
- ・真田氏発祥の地
- ・菅平の観光資源(夏季・冬季スポーツ)ほか



上田市自治会マップ, H25.3

第1回(平成28年5月24日)
第2回(平成28年6月28日)
第3回(平成28年8月2日)

準備会で検討する課題について
設置目標・広報について
取り組み内容・工程表・今後の進め方

第4回(平成28年8月30日)
第5回(平成28年9月13日)
第6回(平成28年9月27日)

STEP1.現状と未来を考えよう
STEP2-1.まちの将来を創造してみよう I
STEP2-2.まちの将来を創造してみよう II

先進地視察(平成28年9月29日)
第7回(平成28年10月12日)

新潟県上越市中郷区・板倉区
視察振り返り・全国の事例紹介

第8回(平成28年11月8日)
第9回(平成28年11月22日)
第10回(平成28年12月6日)
第11回(平成28年12月20日)

STEP3-1.真田地域の「地域運営組織」とは I
STEP3-2.真田地域の「地域運営組織」とは II
STEP4-1.誰が何を担えるのか II
STEP4-2.誰が何を担えるのか III

第12回(平成29年1月24日)
第13回(平成29年2月7日)
第14回(平成29年2月21日)
第15回(平成29年3月7日)
第16回(平成29年3月23日)

真田地域の「地域運営組織」設立に向けての対話会 I
真田地域の「地域運営組織」設立に向けての対話会 II
真田地域の「地域運営組織」設立に向けての対話会 III
真田地域の「地域運営組織」設立に向けての対話会 IV
真田地域の「地域運営組織」設立に向けての対話会 V



○真田まちづくり準備会の様子

真田まちづくり準備会



地域の会議は、とっても**面倒**なこと。「**受け身**」で終始する会議の数々。。
承認をするだけの会議ではなく、**頭と体を使って考える**、生み出す会議に。
本準備会では、とにかく一人一人がアウトプットし続ける「**決めない会議**」を実践。
＜ワークショップ型の対話の場＞を時間をかけて**じっくり・ずっと**行う。
想いは繋がり、主体性をつくり、自分たちの地域を動かす。
「いま」の課題解決だけでなく、「子どもたち」へ何をどう繋げていくか。
応援できる仕組みと、見える活動の実践へ。



○わが地域を見つめる ワークショップ型の対話の成果（抜粋）

真田まちづくり準備会



■ 真田の良さ

- ・祭りが盛ん。多世代で**運動会**や球技大会等をしている。
- ・病院で**送迎**（有料）がある。運賃低減バスが良い。
- ・細い道路の**除雪**を自分たちで分担して実施している。
- ・近所の**草刈**や**清掃**を自主的に行っている。
- ・高齢世代と子育て世代が頑張ってる（**中間世代がない**）。
- ・「**消防団**」の役割が大きい。
- ・PTA活動、保護者同士の交流盛ん。**自校給食**が良い。
- ・自然豊か。水が美味しい。
- ・他地域に**誇れる歴史**がある。
- ・わがまち**魅力アップ支援事業**は続けてほしい。
- ・**有線放送**は継続運営してほしい。

■ 真田の課題

- ・空き家や**荒廃農地**が増えている。
- ・役が多い。担い手がない。
- ・自治会長の**負担**が大きくなっている。
- ・公民館行事の**マンネリ化**。
- ・アパート等の住民が自治会活動に入らない。
- ・女性間のおつきあいがなくなっている。
- ・人のまとまり(祭り、運動会等)に**温度差**。
- ・生活**しづらい**(病院・買い物等)。
- ・**獣害**の被害が多い。
- ・**雪かき**が高齢者では難しくなる。
- ・県外へ進学した若者戻りづらい（**職がない**）。



	《方向性1》 当て職（毎年交替制）	《方向性2》 手あげ方式（公募・スカウト等）
良さ	<ul style="list-style-type: none"> 一定数の人材を継続的に確保できる仕組みとされている。 平等感。 慣習的で異論が出にくい。 	<ul style="list-style-type: none"> 誰でも参画できる。 想いと情熱のある人材が集まる。 メンバーの交替がない（任期が長い）ため、継続的な運営が可能。 メンバーの得意分野を發揮できる。 仲間意識の醸成 → チーム・ビルディング 内容先行型で推進しやすい。 交流の鏡効果（地域の再発見等）。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 新たな（面倒な）役の増加。 毎年（毎年度）、役が交替。 高齢化により、近い将来の担い手が見込めない。 「受け身」型で「批判」と「反発」が存在意義。 	<ul style="list-style-type: none"> ある特定の集まりだけの盛り上がりにも。地域内に温度差。 →活動の透明性を常に保つ必要。 <ul style="list-style-type: none"> 多世代で支援できる仕組み。 地域で見える形に。周知の徹底。 自治会との関係性の明確化

組織設立と持続化のポイント①

■多様な人材の確保

⇒世代交代ができる「人材群」（複数型リーダー）の形成

（総務省アンケート）

- 多世代が活躍する公民館との連携が有効
- 移住者の積極的雇用にも可能性
- 会計・税務・労務は専門的外部サポートが必要

	《方向性1》 行政からの交付金（補助金）のみ	《方向性2》 住民からの「まちづくり会費」のみ
良さ	<ul style="list-style-type: none"> 地域活動の実行までが迅速。 収益性のある事業の開始も可能。 中長期的な事業計画（地域の経営的視点）がより可能になる。 	<ul style="list-style-type: none"> 将来にわたって継続的な運営が可能。 住民の参画（支援）手段の一つに。 情報発信との合わせ技も可能。 地域で見える形になることで支援者が増える。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 行政の押しつけ感。 継続的な運営への不安。 報告が必要（特に行政に対して） 切り崩して（毎年度残りは返して）使う（無くなる可能性もある）。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域全体の合意形成が困難（多くの説明会の必要性）。 報告が必要（特に住民に対して）。 使えるようになるまでに時間が必要。 既存の自治会費等との住み分けは。 徴収方法は？⇒自治会ベースか

組織設立と持続化のポイント②

■複数の財布を持つ

交付金（補助金）&まちづくり会費&事業の収益&寄付金 ほか

⇒短期・中期・長期の財布として考えられるか

（地域のグランドデザインの合意形成・共有の持続性）

多世代で対話をどれだけ積み重ねられるか